

## ～あなたはどのように生きていますか？～

みなさんは、ロアール・アムンセンを知っていますか。1911年12月14日に探検隊を率いて人類史上初めて南極点への到達に成功した人物です。当時、イギリス海軍大佐のロバート・スコットと人類初の南極点到達を競っていました。しかしアムンセンが先に到達することが出来ました。この2人の違いはどこにあったと思いますか。それは、計画性です。アムンセンは、少年の頃から極地探検家（当初は北極だった）になることを夢見て必要となる準備を進めてきました。綿密な計画を立てて隊員にもそのことを教えて安心させ、しっかりと先を見据えて何があっても計画通り遂行していたのです。一方のスコットは、南極探検の計画者である王立地理学協会のクレメンツ＝マーカム卿によって隊長にいきなり抜擢されました。さらに極点到達がアムンセンに先を越された時に不安になり自制心を失いました。それが隊員にも伝播し、隊員の不安をもつらせ、平常心を失わせ、重要なときに物事の判断を誤らせることになったと思われる。みなさんは計画性とその計画を遂行するための自制心を持っていますか。（創世記1:26～31）私たちは神さまの計画により非常に良いものとして創られました。それなのにそのことを忘れて悲嘆に暮れ、自分を守るために「支配するように」との神の命令のみを偏って守っているのです。（創世記41:14～44）ここに出て来るヤコブの子ヨセフは神さまの計画を実行しました。父親に偏愛されていたヨセフは兄たちに嫉妬され、結果エジプトに奴隷として売られてしまいました。しかしヨセフは、そこで諦めないで神さまに忠実に過ごしていたら、最後にはエジプトの大臣になることが出来ました。ヨセフは「自分の先祖が4代目に何かさせるという夢を見た」と言う神さまの計画を知っていました。だからここで自分が諦めてはいけない、どんなことがあっても失望しない、と決断して行動していたのです。いつも神さまと語り合っていました。だから、苦しい時には必ず神さまから知恵を与えられていました。私たちの人生はジグソーパズルのようなものです。でもこのような状態にあることにも気づかないで、この人生の苦難を体験して諦めたり逆ギレしたりしてしまいます。また、パズルの1ピースを見てどうしてその1ピースがどの部分なのかが分かりますか。それは完成図を見ているからです。その完成図を元に計画立てて組み立てていくからパズルは完成するのです。前述したアムンセンの南極点到達と同じです。そしてヨセフも同じです。また、聖書には他にもこのような人がたくさんいます。この計画の管理者は誰ですか。それは私たちです。私たちがこの計画をしっかりと管理しておかないと人生が頓挫してしまいます。ダビデもそうです。信頼していたサウル王に命を狙われ30年荒野に逃げていましたが神さまに忠誠を尽くしていました。神さまの計画を忠実に遂行している聖書に出て来る人たちは、必ず辛い目にあっています。その理由は最初に読んだ創世記にあります。私たち人間はみんな自分のために生きるのです。人の罪は今日までアダムとエバの「人のせいにする、自分は悪くない」と言う原罪・自己義から始まっています。どうしてダビデやアムンセンやヨセフが成功できたと思いますか？それは神さまを自分の前に置いたからです。「（神さまの目で見て）正しいことをしなければいけない」「聖書に書いてある」と思って、心てくされず、失望せず、諦めないでいたのです。「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはありません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。（1コリント10:13）」を信じ続けていたのです。ヨセフはずっと牢屋に閉じ込められていたのに、王の前に呼ばれた時に語るべき事をきちんと語ることが出来ました。そして王から大臣に任命され、周囲の宦官もそれを認めたのです。苦しみを通ってなった大臣なので人々からの信頼も厚くなります。神さまは、的をはずした、神さまの計画から外れてしまった私たちを元の道に…神さまの計画している道に少しずつゴールに近づくように戻りたいと願っています。だから時間はかかります。しかしその修正中の悲しさに耐えられずに自己中心になってしまい、その自分の情けなさをカモフラージュするために人を責めて神を裁き、その何倍も自分が傷ついてしまうのです。負のスパイラルに陥ってしまうのです。しかし、私たちが、自分に与えられている将来の素晴らしい計画を知っていれば、耐えられそうにない辛いことがあっても、絶対に諦めません。「この患難を通して私たちは絶対に神さまの素晴らしい計画を成し遂げられるんだ」と確信できるからです。（エレミヤ29:10～13）私たちには良い計画があります。それは災いではなくて平安を与えるための計画なのです。この計画を知る方法は、神さまを呼び求め、祈り、心を尽くして探し求めることです。ですから祈って神さまに聞いてください。求めてください。そして①**計画を忠実に1つ1つ**、諦めや無力を捨ててこなしてください。私たちは、大きな一目見て驚くような奇跡を求めがちです。しかし神さまは、私たちが正しい道に戻れるように計画立てた試練を与えます。その試練は辛いものですが、耐えられないものではないので、きちんと計画立ててハードルを1つ1つ諦めないで越えられるのです。私たちには、私たちのために十字架にかかってくださったイエスさまと、そのイエスさまが与えてくださった隣人がいます。将来に希望をもって無力を捨てて、助け手と共に頑張りましょう。そして②**神さまを喜ばせる**人生を歩みましょう。戦国武将に黒田官兵衛と言う人がいます。クリスチャン武将です。彼は戦いの時代にあって「戦わずして勝つ…融和戦術」で成功していきました。このようなことが出来たのは、神さまを知っていたからです。彼はいつも何かをする前に神さまの前に出て祈ってこたえを求めていました。この信念が江戸城無血開城へと繋がります。（箴言16:1～7）黒田官兵衛は、イエスさまと同じ事をしていました。織田信長から人を斬り殺した刀をもらった時に「刀によって人を滅ぼさない生き方をしよう」と決めました。イエスさまが言われた「剣をとる者はみな、剣で滅びる（マタイ26:52）」と同じです。（詩篇91:14～16、119:66～72）とダビデが言っています。このダビデの先祖に落ち穂拾いのテーマにもなったルツがいます。代々堪え忍んで努力した祝福も引き継いでいるのです。耐えて→祝福され→間違った道に戻して→耐えて→祝福されて…を、繰り返しているので聖書を知っている人は困難にあっても絶対に諦めません。これは自分のためではありません。自分を通して誰かが幸せになるためです。これを神さまは喜ばれます。神さまを喜ばせる人生を歩みましょう。そして③**祈りと見張り**が必要です。ネヘミヤは（ネヘミヤ4:9）で祈りながら見張りを置きました。「相談して計画を整え、すぐれた指揮のもとに戦いを交えよ（箴言20:18）」とも語られています。祈って「神さま、後はよろしくお願いしまあ～す」では、棚ぼたの規制を求める信仰になってしまいます。私たちは地の管理者としてたてられています。地の管理者は自らの管理者でもあります。故マンデラ大統領も「私たちは魂の管理者である」と言っていました。自分を管理できるからこそ計画が遂行できるのです。今まで、諦めたり、自分の知識・意志・感情に流されて逃げてしまった人は、今日からはそれらをしっかりと管理して、良いことが起きた時にめれなく収穫して蓄えていきましょう。ダビデが詩篇103・119篇で「苦しみにあってあなたの奥義を学んだ」と言った後に「数えてみよ主の恵み。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」と言っています。良かったことをたくさん蓄えておけば苦しみにあった時に必ず乗り越えられると知っていたのです。ですから私たちも感謝することを止めてはいけません。これは試練にあった時これを乗り越えるための方法です。自分の問題を神さまに委ね、その解決法を神さまが計画立てて与えてくださいます。その計画が遂行できるように見張りをおいて管理していきましょう。そうすれば人々が私たちの生き様を見て神さまを感じ「このようになりたい」と思うはず。 （要約者：行司佳世）